北浜コラム vol.3

2013.4～2014.9

ふれあいの家ーおばちゃんち

北浜こども冒険ひろばとは…2013

　北浜こども冒険ひろばは、木登りや穴掘りができる公園です。自分の責任で自由に遊ぶをモットーに、子ども達の「やってみたい」を応援しています。木からロープをたらして、ブランコを作ったり、ハンモックでのんびりしたり…。穴を掘って水を入れ、その中で泳いでみたり(笑）。

　ここにはたくさんの遊びがあふれています。

　水曜日と土曜日はスタッフがたき火をして待っています。お砂糖を持って来ればベッコウアメも作れます。マシュマロ焼きやおやつを焼いてたべる子どもたちもたくさんいますよ。他の曜日でも子どもたちがたき火を自分でやってみたいと思ったら、スタッフに声をかけてみてください。自分で起こした火でお湯を沸かし、お茶を飲むのは最高です。

　子どもはもちろん、大人も「自分の中の子ども」を思いっきり遊ばせに来てください。

（みやさん）

まもなくダンゴムシレース

　間もなくダンゴムシレースが行われます。そう、あのダンゴムシがレースをするのです。

　このレース、実は子どもたちが考えたもの。最初は子どもたちも一列に並べ、レースをさせたりしていました。でも、ダンゴムシはもちろん前にだけ進むわけがありません。ゴールすることなんて、ほとんどありません。そこで、曲
がってどこかに行かないように、コースに枠をつけて走らせました。それでも戻ってきてしまうものや、壁によじ登ろうとしたり、考え事をするかのように止まってしまったり…

　そんなある日のこと、Ａ君（小3年）たちはマンホールのふたの上でレースを始めたのです。ふたのまん中にダンゴムシを置き、ふたの上から最初に出たダンゴムシが優勝ということです。子どもってすごいですね。現在は二重の円をえがき、まん中の円にダンゴムシを置き、外側の円から最初に出たダンゴ虫が優勝というルールになって
います。

　つきちゃん、はやぶさ、おきた、ディオン、ソードオブファイヤー、ボロボロス、ジョービーダー、まははる・・・はやいダンゴムシが、いま北浜こども冒険ひろばに集まってきています。はたして今年の優勝は…

（みやさん）

品川子育てメッセブログより

　まもなく始まる品川子育てメッセのブログに、北浜こども冒険ひろばについての記事が掲載されていました。利用者（お母さん）が書いてくれたものでした。許可を得て掲載させていただきました。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
　こんにちは。わらこです。
　人生で必要なことを学べる、とっておきスポットをご紹介します。（ほんとは、秘密にしておきたい位、とっておきです。）品川唯一のプレーパーク、北浜こども冒険ひろば（京急新馬場駅徒歩約7分、北品川2ー28）です。プレーパークって、普通の公園とはちょっと違うのです！

　何かに挑戦したり冒険したり、というドキドキ・ワクワクする体験を大切にしているという違いがあります。大人からしたら、「危ないこと」「きたないこと」「うるさいこと」を「ダメ」と禁止するのではなく、一緒に考えてやってみる。「挑戦すること」や、「0から遊びを作り出すこと」が、その子の「自分は尊重されているんだ」という信念につながる感じがします。また、そこでの子ども同士のけんかとか、いざこざ（親の介入ほぼ0！！）も、きっとその子たちにとって、「人とのかかわりを学ぶ」宝物のような体験になるはずです。

　先日、息子と共に北浜こども冒険ひろばに遊びに。息子がお友達と電車の取り合いになって、その子からたたかれ、泣いてました（私はちょっと離れたところに）。が、「ママ～」とこちらに避難する様子もなく、しばらくすると、また二人で遊んでました。以前は泣いたりした時は、直ぐに私を探して、抱きついてきたりしたんですが、この時は、私のところに来なかった。息子の成長が感じられて、とても嬉しかったな。

　子ども同士がぶつかる前に、大人が「よかれ」と思ってぶつからせない。そんなご時世、ここで、子ども同士しっかりぶつかって子どもなりに、「うまくいかないこと」「思い通りにいかないこと」を沢山体験してくれたらいいなと思っています。0,1,2才のお子さんにとっても、楽しめます。自分がまだあまり動けない子でも、自分よりちょっと大きいお兄ちゃんお姉ちゃんが遊ぶ様子を、興味深そうに「じーーーーっ」と見てます。それだけでも、子どもにとっては、とてもいい刺激になってるのでは。是非一度、北浜こども冒険ひろばを体験してみてね。（汚れてもいい服と靴にして、着替えやタオルも持参することをおすすめします。汚れるからダメって子どもに言わなくてすみますよ。思いっきり遊べる方が親も気が楽です(^o^)）

夏休みはドラム缶風呂

　今年もドラム缶風呂の季節がやってきました。ドラム缶に水を張り、下で火を焚き沸かす。夏休みはほぼ毎日お風呂を沸かしています。

　「なつかしいねえ～」年配の方たちは立ち止まって、お話をしてくれます。この町の昔のこと、子どもたちのこと…

　「ええ！火傷しないの…」心配する方もいますが、大丈夫。中のお湯の温度以上にドラム缶が熱くなることはありません。　大人のみなさんもいかがですか。スタート時はお湯も少ないので足湯です。それでも疲れがふっと抜けて、公園が今までと違う場所に見えますよ。

　そして、さらに夏休み最後の土曜日は大きな穴を掘って、露天風呂を作ります。北浜公園が温泉になってしまいます。どうぞお楽しみに。

（みやさん）

幸せの種

　夏休みはドラム缶風呂の日々。

　ある日いつものように片づけで、ドラム缶を転がして運んでいました。子どもたちが手伝いだしました。「ドラム缶の底を触ると汚れるから気をつけてね…」そう言ったのですが、子どもたちは転がすことに夢中。「あっ」気が付くとA君の手は真っ黒け。大人ならこんな時「あ〜あ」と、失敗を悔やんでしまいます。だけどこんな時、子どもは笑うのです。

　「ニヤリ」とA君のいたずらの目が輝きました。さっそく、汚れた手を人に付けようとして…キャアキャアの時。子どもは面白さのにおいに敏感。何人もの子どもが集まってきました。やがて彼は、手を洗うと真っ黒な「墨」ができることを発見。ジョウロをそばに持ってきて、手をその中で洗っては、またドラム缶の底を手で触れて…。今や手は「墨」を採集する道具になっていました。ほかの子どもたちもそれに続きました。ジョウロに入った「墨」を子どもたちは水飲み場までこぼさないようにゆっくり運びだしました。水飲み場ではいったいいつ打ち合わせをしたのかと思うほど手際よく、B君がタライに水を注ぎだしていました。A君たちが到着。ジョウロの墨を注ぎ込みました。「白と黒の戦いだ！」普通の水が白、彼らが作った「墨」が黒。「おお！黒が勝った」「すげえ！」遊びは永遠と続きます。

　笑うことで、仲間が増え、遊びが広がっていく。一人の笑が、仲間の笑へ、そして公園の大人たちも笑っている。すげえ！のは君たちだよ。幸せが広がっていきます。ドラム缶はまだまだ片づけられません。

（みやさん）

水たまりに寝てみたい

　雨降りのあと水たまりの中にベニヤ板が沈んでいた。それを先ほどから熱心にデッキブラシでこすっているY君（4年）がいた。なにをしているか尋ねると、ベニヤをきれいにしているのだという。きれいにしてそこに寝るのだという。きれいにするって言ったって、それは泥の中、洗っているのも泥水…少々呆れてみていると、S君（4年）が「じゃあ、おれ寝てみる」とそのベニヤの上に横になった。「冷てぇ！」と言いながらも、すぐに大爆笑。

　「まだ少しジャリジャリするな…」「まだ汚れてる」と言ってデッキブラシを持ち泥水でごしごし洗い出した。やがて2人は仲良くベニヤ板の上に横になった。

　至福の時なのだろう。泥水の中…大地はすべてのものの母。彼らは今確かに大地の母に包まれている。

（みやさん）

ダンボールはすごい！

　時々、北浜こども冒険ひろばのまん中に、大きなダンボールが登場する。ご近所の電気屋さんが、大きなダンボールが出るたびに、持ってきてくれるのだ。

　スタッフはこのダンボールが子どもたちの手でどうなるか楽しみで、公園のまん中においておく。遊びに来た子どもが見つける。中に入ってみる。ダンボールの穴からのぞく公園は、また違った場所に見える。イスを入れて家になる。かぶって歩いてダンボールマン。普段はかかわりのない高学年の子どもがダンボールマンになって幼児を追いかけ、鬼ごっこのようになる。歓声が公園中に響き渡る。

　風の強い日にはダンボールが箱ごと飛ばされ、あたかも走り回るように見える。このダンボールを追いかける子どもたちの興奮ぶりはすごい！横倒しのダンボールに入ってハイハイをする、人間キャタピラーも大人気。そしてつぶれ最後にはごっこ遊びの敷物になる。

　ダンボールはすごい！遊びは無限だ。　（みやさん）

M ちゃんのはなかっぱ

　Mちゃん（3歳）が風船を持って遊びに来た。ところが遊んでいるうちに、風船は割れてしまった。悲しそうなMちゃ
んに、Aちゃん（3年）が家から風船を持ってきてくれた。喜んだMちゃん。ところが突然の風。「ああっ」風船は高く飛
ばされていってしまった。「よし、おれにまかせておけ！」とT君（4年）。Aちゃんと一緒に出かけていった。
「ほら」と誇らしげに渡された風船がうれしくって、Mちゃんは頭の上に乗せて歌を歌いだした。「春夏秋冬　朝昼晩
～♪」頭に花が咲くはなかっぱのアニメの歌である。つられてまわり人たちも歌いだした。「花咲けわからん～♪」大合
唱。ところがまたまた風船は割れてしまう。そこでスタッフが折り紙で花をつくろうと提案。歌を歌いながら一緒に作
り出した。

　それを見ていたT君。Mちゃんの頭に乗せる花台を作り出した。竹を選び、割り、手を怪我しながらも切り、
穴をあけ…「おお、いいのができたね…」「いやあ、まだまだ、ここがだめなんだよ…」その日一日かけても満足せず、
持って帰って3日後、やっと完成した花台をもって、T君登場。だけどMちゃんの関心は別のところに行ってしまってい
た。気がついたMちゃんのお母さんが、「じゃあ、代わりに私が…」と言って頭にくくりつけた。なぜかとても似合っていた。（笑）

　学校も年齢も違う子どもたちが、心をよせ合うことが遊びになる。こんなやさしさに包まれて子どもたちは育っていく。まちっていいね。

（みやさん）

北浜こども冒険ひろば とは　**2014**

北浜こども冒険ひろばは…
「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、子どもの「やってみたい」を応援しています。

　木からロープをたらしてブランコを作ったり、ハンモックでのんびりしたり。スタッフと一緒にたき火をしたり、大きな穴を掘ってみたり…ここには四季折々の自然とたくさんの遊びと笑いがあふれています。ここで働くスタッフはプレイワーカーとよばれています。子どもたちの遊び（時には人生）の相談に乗ることが役割です。

　たとえば、今ではあまり経験できない火との出会いも、スタッフがサポートしています。火遊びが火事の原因になることがある一方で、マッチの擦り方さえ知らない子どもたちも増えています。防災のスキルを高めていくためにも、大人と子どもが火をはさんでおしゃべりすることが、今だからこそとても大切になっているのだと思います。火の大切さ、怖さ、安全な扱い方を伝えていきたいと考えています。

　乳幼児の親子も多く、大人は子どもたちの土や水とのダイナミックな遊びや、時には子ども同士のケンカも温かいまなざしで見守りながら、子育ての悩みやいろいろな話題に花が咲きます。また子ども連れでない様々な年代の大人にとってもくつろげる場所であり、赤ちゃんから大人までのまちの憩いの場所となっています。

おもちゃのノコギリで石を切る？

　K君(3歳)はおもちゃのノコギリで石を切っていました。そして公園の隅に座っているお母さんに誇らしげに見せに行き、お母さんは何が何だかわからないのですが、にっこり笑って「おおすごいね」と答えました。

　あそびはしりとり。必ずその原因があります。実はその数分前、K君はスコップで穴を掘ろうとしました。お兄ちゃんたちを見て、自分にもできるかやってみたかったのです。グイッと力を入れるとスコップに土が少し乗りました。嬉しくなったK君はさっそくお母さんに見せに行きました。

　お母さんはなにげなく「たくましくなってきたね」と言いました。この言葉が嬉しくて、K君はまた掘りに行きました。しかし今度はなかなか掘れません。そこですぐに気が変わり、スコップを捨て、「次の仕事は何かな」と歌いながら穴の周りを歩き始め、おもちゃのノコギリを見つけたのです。K君は初めこのノコギリで地面を切ろうとし、次にそばに敷いてあったベニヤ板。やがて持ち運ぶことができる石。そしてお母さんに見せに行ったのです。お母さんの言葉に満足したK君は、また仕事をさがしに穴掘り場に戻っていきました。

　そこで目に入ったのが、Y君(小学5年)。Y君は手押し一輪車に水をため、そしてその中にミントの葉っぱを入れていたのです。K君はそこに落ちている葉っぱを持っていきました。お兄ちゃんの役に立ちたいと思ったのです。最初は訝しがっていたY君ですが、K君の気持ちが分かり、「いいよ！」たちまち手押し一輪車の中は葉っぱだらけになってしまいました。(笑)

　お母さんの言葉が、役に立ちたいという気持ちを引き出し、K君の一日を輝かせていました。

（みやさん）

登りたいのに、登れないの ...

　ハナミズキの木の前に三輪車を持ってきたMちゃん(3歳)。さっきから彼女はこの木に登ろうとしていたのだ。そこで三輪車を台にして登ろうと考えた。でも動いてしまってうまくいかない...。木を見上げるMちゃん。そして突然「登りたいのに、登れないの...」大粒の涙をこぼした。　「ぐらぐらしないものがないのかな...」とお話すると、周りを見渡し、数メートル先の紅葉の木の下に椅子を発見した。さっそく紅葉の木のところへ行きその椅子に乗ってみた。紅葉の木へのチャレンジである。紅葉の木のそばにはソファーが置かれ、Mちゃんのお母さんたちがおしゃべりをしていた。

　椅子の上から登ろうとするMちゃん。でもやはり登れない。反対側にもう一つの椅子を見つけたMちゃん。今度はこちら側から...足をのせてみる。足を木にかけて、少しずつ、少しずつ上へ。そしてついに上の枝にのれた！その時、「Mちゃん、すごいね！」のたくさんの歓声。さっきまでおしゃべりしていたと思っていたお母さんたちはしっかりMちゃんのことを見ていたんだ。満面の笑み。素敵な風が吹いていた。

　それから数日後。「ヒモを出してほしいの...」とMちゃん。ハナミズキの木にかけてほしいという。やはりこの木に登りたいんだ。Mちゃんの挑戦はまだまだ続く。遊びは終わらない。

(きたコロッケ)

H 君の寿司

　H君 (5年)は寿司を握るのがうまい。泥を使って作る寿司なのだが、握る時の職人の動きをしっかりまねる。素晴らしいリズム感だ。ただの泥なのに、H君の手にかかると、トロやイカ、タイやイクラなどに握り分けられる。そんな話を開園前のスタッフミーティングで話していると、さっそくH君が自転車で滑り込むようにやってきた。

　「ねえ寿司握ってくれない…？」と私が話すと、「いいよ!」とさわやかな返事。ところが「待ってて」と言って、いつもの泥遊びの場所とは反対の薪置場の方へ歩いて行った。何か作りたいものがあるのだろうと思っていると「物差し貸してくれない？」との声。やがて物差しで木を測り、寸法を取り切り始めた。そして四角い板の左右に角材が打ち付けられた。

　どのくらい時間が経っただろうか。「これでいい」と満足げなH君。その小さなまな板のようなものを持って、泥遊びの場所へ歩いて行った。やがて泥を寿司桶(本当はバケツ)の中に入れ、寿司を握りだした。

「何にします」「え、じゃあ中トロお願いします」「はいよ」
「お待ち」

　そして泥でできた寿司を先ほど作った板の上に置いた。そう!これは寿司台だったのだ。

　お客に出すシーンをイメージして、準備をする。遊びのこの廻り道。子どもってすごい!!

（みやさん）

北浜コラム　vol.3

http://p.booklog.jp/book/90218

著者 : obachanchi
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/obachanchi/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/90218

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/90218

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ